

## 五点一線政策と拡大する船舶工業エリア

中国政府が掲げる第 11 次五カ年計画の初年度である 2006 年、遼寧省は沿海経済ベルト地帯を重点的に開発する「五点一線政策」を打ち出し、対外開放を拡大する戦略構想を立ち上げました。これは遼寧省の沿岸部の 5 地域を重点地区とし、沿海高速道路の建設により、五つの点を一つの線で結ぶ構想です（別図参照）。それから 2 年、開発支援区域を拡大し、今や同政策は国家プロジェクトへの格上げを検討されるまでになり、中国東北地域において投資のホットスポットとなっています。各都市とも、GDP に大きな比重を占める工業を中心に誘致を進めてきましたが、特に造船業を軸とした発展には目を見張るものがあります。



### < 開発が進められる大連 >

大連市には長興島臨港工業区、花園口経済区の二か所があり、中でも長興島は開発当初より造船を軸に積極的な誘致活動を行っています。開発面積は中国で 5 番目の面積を有する長興島とその周辺の 4 つの島を合わせた約 500k m<sup>2</sup>に及び、韓国の STX 集団をはじめとする造船関係企業、海洋構造物製造企業が進出しています。ここでは 5~7 万トンクラスの造船が可能です。また、大連の主要産業である造船業について、市政府は将来的に地元関係企業もこのエリアへ集中させる方針を打ち出しています。本年秋口にも、同エリアへは 2 本目となる高速道路が開通し、市内から約 1 時間強で往来が可能となる予定で、ゴルフ場や四つ星ホテルなどの生活インフラも着々と整備され、五点一線の中でも随一の成功モデルといえるでしょう。

また、大連の花園口は大連経済技術開発区より高速道路で約30分、2008年より新材料産業、光電産業を中心に本格的な誘致活動を開始しています。大連港に比較的近く、丹東市と大連市を結ぶ丹東高速道路沿線に位置し、造船企業集積地の大連の中では、部品工場の設立等に適した条件を備えています。

観光地として名高い旅順は、今年夏の対外開放を目前に、2009年より本格的に対外的な誘致活動を開始しました。日系の造船会社のほか船舶修繕、部品製造企業等、合計で約30社が進出しており、五点ではないものの、周辺地域の中では比較的造船関係企業が集中しています。



盤錦船舶工業基地にて製造中の船舶

#### < 高速道路で結ばれる重点地区 >

営口市は大連市の北西の都市でマグネサイトやタルク等の天然鉱物資源が豊富で岡山県企業も数社進出しています。営口港は遼寧省で最も早く開港し、現在では中国の主要港湾の一つとなっています。国家級の開発区である営口経済技術開発区は、港湾を有し瀋大高速沿線でかつ大連と瀋陽のほぼ中間地点という、物流における好条件が注目を浴び、近年、進出する企業が増加しています。

盤錦市は営口市の西隣の都市で、良質のコメの産地として知られています。また、中国第三の油田「遼河油田」を背景に石油化学工業も盛んで、農業と工業を両輪に産業振興を展開しています。五点の中では北京・瀋陽双方を販売市場として捉えることができ、日本からの進出が中国国内市場をターゲットとする場合は、他都市よりメリットがあると言えます。



着々と整備されつつある営口港

この営口市、盤錦市にはともに船舶工業園が設立されており、中には大連から移転してきた企業もあります。営口の遼寧船舶工業園では既に2万トンクラスの発注を受けており、盤錦船舶基地も同様の条件を備えています。

両市とも開発可能な広大な土地を有し物流条件が良いことから、大連に次ぐ外資企業の進出地域として候補に挙げられること

も多くなりましたが、今後は、技術に見合う人材の確保、娯楽を含む生活・安全環境の整備、外資受け入れに伴う現地政府の各種の具体的な協力体制、五点一線政策が国家プロジェクトに格上げされた場合の優遇政策等の条件次第で、更に魅力を増すことでしょう。

中国においては、2001年のWTO加盟後、サービス業の発展が顕著でしたが、「世界の工場」という立場に変わりはありません。特に、工場の建設のみならず、部品調達や物流など各段階において産業クラスター化が必要とされる造船業において、五点一線地域は、中国での事業展開にあたり検討に値する地域であると言えます。

\* 写真は日中経済貿易センター大連事務所提供